令和2年度 ソニー幼児教育支援プログラム

「主体的な遊びからはじまる探求活動」













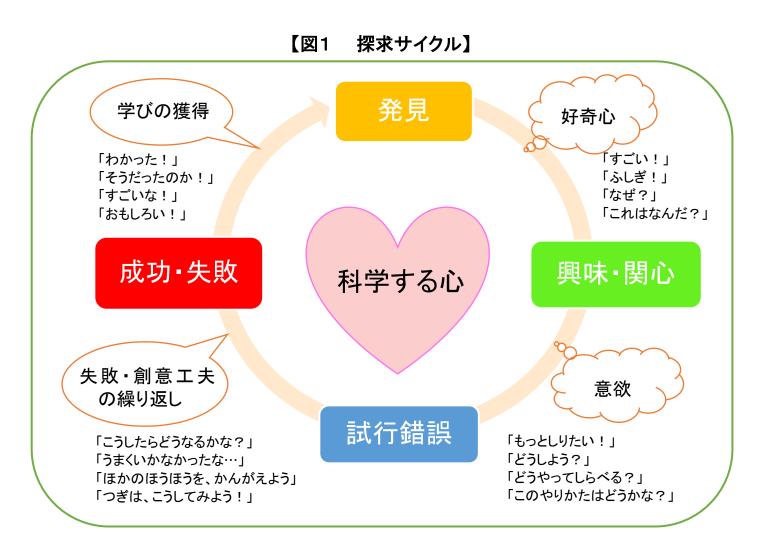
社会福祉法人芽豆羅の里 幼保連携型認定こども園 めずらこども 園

目 次

Ι	本園の「	科学する心」1
Π	テーマ部	は定について
Ш	実践事例2	
	事例 1	「大きいのがきたよ!」 2
		2歳児 たけのこ組2
	事例 2	「色が変わったよ!」 3
		3歳児 くすのき組3
	事例 3	「泡って空気なの?」 4
		4歳児 あすなろ組4
	事例 4	「どうしてアサガオが育たなかったのかな?」 10
		5歳児 もみのき組10
IV	実践の考察19	
V	今後の課題・方向性19	

Ⅰ 本園の「科学する心」

本園においては、「園児自身の力を十分に認め、一人ひとりの発達過程や心身の状態に応じた適切な援助や環境を整え、科学的な思考や自立心、自主と協同の態度などを育むこと」を目指している。特に、身近な恵まれた自然環境の中で、園児の発達や学びの連続性を踏まえ、開園以来、創設者(医博、安東文二郎)の科学する心(造化の不思議に感動する心と謙虚な心で物を見る態度)を基に、園児が自ら環境等にかかわり、興味・関心を広げ様々な体験活動や遊びを通して非認知能力の育ちを、図1の探求サイクルにより繰り返し取り組み、確かめていくことから、考える力をつけることができ、「科学する心」が育てられると考えている。



Ⅱ テーマ設定について

昨年度は、日々の教育・保育の中で園児たちが発見した「み~つけた!」に着目し、多くの「み~つけた!」を園児たちは全員で共有することができた。「おもしろいね!」「何だろうね?」を合言葉に、園児一人ひとりの「み~つけた!」を感じることにより、園児の気付きが増した。職員も園児の視線が向かう探求に、一緒に探求・関心を面白がり、園児が自ら考えを深められるような適切な声かけをする姿が多く見られるようになった。

本年度も園児たちは、たくさんの「み~つけた!」の探求活動に意欲的に取り組んでいる。その中で、園児たちの姿を追究していくと発見の裏には、多くの失敗を重ね、この失敗を基に探求を進めていることに着目することができた。そこで、本年度は園児の挑戦した意欲に「ナイストライ!」と認めの言葉をかけることで、さらなる探求へと繋がり、再挑戦や創意工夫する糧となっていると考えた。「ナイストライ!」のプロセスから、園児たちの気付きや工夫がどのように変容し「科学する心」が育まれていくかを分析し実証するため、テーマ設定した。

事例 1 「大きいのがきたよ!」 2歳児 たけのこ組 7月~8月

場面1:〈大きな飛行機雲だ!〉

Sくんが空を見て「飛行機雲!大きいのがきたよ!」と友だちに知らせる。先日の飛行機雲に比べて雲の幅が広く、周りの園児たちも「本当だ!大きな飛行機雲!」と喜ぶ姿から園児たちが毎日様々なことに興味を示し、空にも興味を示していることが伺えた。その日の夕方「飛行機雲描こう!」と園児たちが飛行機雲の絵を描き始めた。

大きいのが 来たよ!

場面2:〈雲がお散歩してる!〉

「見て!雲がお散歩してる!」とTくんが雲を指さす。雲が風に乗ってゆっくりと動いている様子をRくんとMちゃんが「本当だ!?なんで動いてるの?」「どこに行くの一?」と不思議に感じていた。翌日、散歩をしていると、ペットボトルで作られた風車が回っていることに気付いたSくんとTくん。「風さんがいるよ!」と空に向かって言っていた。



場面3:〈これ雲みたいね!〉

保育教諭が保育材料を出していると、白い綿を見つけたRちゃんが「これ雲みたいね!」と綿を触って遊び始める。HくんとMちゃんは、綿をテーブルの上に乗せ「せーの!」と息を吹きかけどのくらい飛ぶか競う遊びを始める。「すごいね!どうしたらそんなに遠くまで飛んだの?」と声をかけると「大きいフーってしたら雲が飛んだ!」と得意気に知らせるHくん。後日、雲が流れている様子を見てMちゃんが「大きなフーってしたのかな?」と空を見上げていた。



場面4:〈今日の天気は?〉

「今日の雲は怒ってる。」「今日は太陽ないね。」とKくんとHちゃんが空の様子を見ていた。別の日には室内から曇空を見上げて「今日はお外で遊べるかな?」と園児同士で話していた。雲だけでなく、空、天気にも興味が広がってきている。天気カードを活用し本日の天気を園児と考えるようにした。この活動を毎日楽しんでいると「晴れ」「雨」という言葉が園児たちから出てくるようになった。「今日の天気は?」と保護者に尋ねてから登園する子もいる。Rちゃんは「天気予報見たよ!傘のスタンプだった!」と知らせてくれた。





【考察】

場面1の「大きいのがきたよ!」との言葉から、今まで園児たちが見てきた飛行機雲の大小の比較をしていることが伺えた。毎日の生活の中に当たり前にある空に興味を示している。場面2の、Tくんの「雲がお散歩してる!」という言葉から、始めは雲が意志のあるものとして考えていた。しかし、散歩や遊び(場面3)での発見を実際の雲の動きと照らし合わせ、気付きが育ってきていると考える。場面4では、興味・関心が広がり、情報を共有する気持ちが生まれてきている。また、得た情報を周りに発信する姿も見られるようになってきた。

事例2 「色が変わったよ!」 3歳児 くすのき組 7月~8月

場面1:〈石の色が変わってる!?〉

戸外遊び時に「先生、なんか色が変わっちょん!」と驚きながら石を持ってきたSくん。「水に濡れたら色が変わった!」「なんでなん?」と水に濡れると石の色が変化することの不思議さを感じていた。Sくんは園庭にある石を集めて水で濡らし始めた。どんな石でも水に濡れると色が変化するものと予想していたSくんだったが「なんで白い石は色が変わらんの!?」と水に濡らしても色の変化がない石があることに疑問が膨らんだ。

場面2:〈色が変わる石と変わらない石があるんだね!〉

色が変わる石と変わらない石があることに気付き、石を分けて観察していたSくん。そこに関心を示したKちゃんがやってきて「色がついてる石は変わらんね!」と白やオレンジ色の石は水に濡れても色の違いが分かりにくいという新たな発見をし、面白さを共有していた。それを傍で見ていたMちゃんが「木の所から持ってきた石でな!」と2人に共感し遊びに加わり、場所によって違う石があることに気付き、石を集め始めた。

場面3:〈ザラザラした石が水に濡れると色が変わるんだね!〉

Sくんは虫眼鏡を使って石の観察を始めると「なんか小さいのがたくさんついちょん!」と気付き、その姿を真剣に見ていたYくんが「ツルツルしちょんよ!」と言うと、Sくんが「こっちはザラザラしちょん!」と石の表面に注目し、互いに気付いたことを伝え合った。今度はザラザラした石とツルツルした石を分け、ザラザラした石を水に濡らすと色が変化した。ツルツルした石は変化しなかった結果から、ザラザラした石が水に濡れると色が変化するというSくんなりの考えに友だちが共感した。不思議の発見や探求に突き進んできたSくんは嬉しそうな表情だった。それぞれの気付きを伝え合い、園児同士のやり取りが活発になった。その後も、それぞれが不思議に思った石集めのブームが続いた。

水に濡れたら色が変わった!なんでなん?



なんで白い石は変わらんの 💄





世が変わらない石

虫眼鏡で見てみよう!









色が変

込わる 石





【考察】

水遊びの中で、手に持った石が濡れると色が変化することに驚きを感じたSくん。疑問や考えたことを試していく中で、水に濡れても変化が分かりにくい石があることを発見する。その姿に興味を持った友だちが集まってきた。みんなで一緒に面白がって遊ぶことにより、やってみたいことを園児同士で伝え合い、見せ合い、石を拾い集める探求があふれ出てきた。探した場所により、ザラザラした石やツルツルした石などの違いがあることが分かり、それぞれの石を分類しながら違いを発見していった。不思議の発見や探求に突き進んでいくことで、Sくんなりにザラザラした石は水に濡れると色が変化するという発見をみんなと共感し、達成感を味わう経験となった。Sくんが始めた遊びが、友だちとのかかわりによって広がり、発見を伝え合うことで新たな気付きへと繋がっていった。面白い遊びが広がり"やってみたい"を実現し探求することで、遊びを通した発見を深めていくと考える。園内の環境で石を集め、水に濡らすことにより変化した石と変化しない石と確認できた園児たちの、今後の気付き・探求が、どのような方向に広がっていくのか楽しみである。

事例3「泡って空気なの?」

4歳児 あすなろ組 7月~8月

場面1:〈空気が出てきたよ!〉

掃除時間、Sくんが「先生、こっちに来て!空気があ る!空気!Mちゃんの雑巾から、空気が出てきた よ!」と驚いた表情で、大きな声で教えてくれた。Sくん の指さす方を見てみると、バケツの水に雑巾を入れた ら、指の間からプクプクと小さい泡が出てきた。近くに いたSちゃんやHちゃんも「すご~い!」「面白い!」と 興味を示した。しかし、Yくんは「それ、空気やないよ! 泡で!」とSくんたちに声をかけた。Sくんは「泡って空 気なんで!IYくんは「違うよ、空気やないよ!」と互い に自分の考えを伝え合う姿が見られた。翌日の掃除時 間、Sちゃんが「私も泡が出てきたよ!プクプクってな ってる。」と泡を発見した。昨日Sくんが泡を発見したこ とを覚えており、「雑巾を絞ろうと思ったら泡が出来 た!」と嬉しそうにしている。その姿を見て、SDくんが 「歯磨きする時も、泡っち出来るんで!」と保育教諭に 教えてくれたので、「明日の歯磨きする時に、また泡が 出来たら教えてね。」と伝えた。そして、翌日の歯磨き をする時、SDくんが「ほら、コップに水を入れる時に泡 が出てくるんで!」とほかの園児に伝えている。Yくんも 「本当や!いっぱい出てくる。」と新たな発見をして喜 ぶ姿が見られた。様々な場所で泡を発見することを楽 しみ、『泡』に対しての興味・関心が高まっている。



泡が出てきた!





私もやってみよう!



水を入れる時に 泡が出来るよ!





いっぱい泡が出てくる!



【考察】

今までの生活の中でも、『泡』を見たことがあるはずだが、掃除時間にSくんが泡を発見した時の驚き方や、「すごい!」と大きな声で保育教諭に伝える姿を見て、ほかの園児も『泡』に注目し、興味を持ち始めた。翌日のSちゃんの「私も泡が出来た。」という言動から、友だちが発見したことを『面白い』と感じ、自分も発見したい、同じことをして泡が出来るか試してみたいという気持ちが出てきたのではないかと考える。始めは小さな発見だったが、一人が興味を持ち始めるとその面白さがほかの園児にも伝わり、大きな発見へと変わっている。泡が出てくる不思議さや面白さを共有することで、『ここにも泡が出来るよ。』『何で泡が出来るんだろう?』などと泡への興味・関心が高まり、様々な場所で泡を発見することに楽しさを感じるようになった。

また、『泡は空気なのか、空気ではないのか。』という疑問が出てきており、自分なりの考えを伝え合う姿も見られた。

場面2:〈あすなろ研究所!〉

掃除時間、プール遊びの時間、手を洗う時など、様々な活動や場所で泡を発見すると、友だち同士で「ここにも泡が出来たよ!」と伝え合う姿が増えてきた。「泡っち面白いな~!」と泡への興味・関心が高まっているので、グループに分かれ、『泡はどんなところに出来るか。』『どうしたら泡が出来るのか。』など、今まで発見した場所や条件などを伝え合い、情報共有することにした。

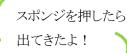
今までの生活や経験を思い出しながら、Mちゃんは「泡は空気やけん、雑巾を絞ったら出てくる。」、SDくんは「歯磨きの入れ物でも泡が出来るよ。」、Sちゃんは「水にも空気があると思う。」など、それぞれ考えた意見が出てきた。また、どうしたら泡が出来るのかという問いには、KIちゃんが「水の中にスポンジを入れてギュッと押したら、泡が出てくるんじゃない?」Kくんが「ペットボトルにお水を入れたら出来るかもしれん。」と予想を立てた。

そこで、予想を立てたことを試せるように「自分たちで泡 を作る実験をしよう!」と提案すると、園児たちの意欲がさら に高まり、「ここは研究所やね!」「あすなろ組じゃなくて、 博士組って言うのはどう?」と張り切り、主体的に活動を進 めようとする姿が見られた。実験をするためには、何が必要 かを考えていくと「水・バケツ・スポンジ・石鹸・ペットボトル・ 雑巾・・・。」と様々な道具や素材が必要だと考えついた。必 要な道具を準備し、『泡作り』の実験をスタートさせた。普段 の生活の中から「石鹸を使うと泡が出る。」ということを知っ ている園児たちは、水に石鹸を入れてかき混ぜたり、手に 付けてゴシゴシとこすったりした。予想通り、石鹸が泡立っ てくると「出来た!泡が出来たよ!」と喜んでいる。スポンジ を使うと泡が出来ると予想していたKIちゃんの考えに興味 を示したTくんは、スポンジを水に入れて実験をしていた。 試してみると、スポンジからプクプクと泡が出てきた。Tくん が「すごい!実験大成功!」と喜ぶ声にほかの園児たちも 集まってきた。もう一度試し、ほかの園児にも見せると「本当 や!すごい!僕もやってみたい。」と関心が高まり、面白さ を感じていた。また、ペットボトルを使うと泡が出来ると予想 していたKくんは、水を入れてペットボトルを振っていた。 「小さい泡がある!」と泡が出来たことを保育教諭に伝えて いたので「振ったらできるんだね!」とKくんの喜びに共感 すると「今度は、大きいペットボトルでもやってみる!」と意 欲が高まっていた。

実験終了後、クラスで実験結果を発表し合った。「石鹸を使うと、泡が出来る。」「スポンジを水の中に入れて、押したら泡が出てくる。」「ペットボトルに水を入れて振ったら泡が出来る。」ということが分かった。











いろいろな実験をして楽しかったね!

【考察】

泡を発見するたびに、友だち同士で伝え合っていたので、泡への興味・関心がクラス中に広まってきた。泡を発見した場所・条件を伝え合うことで、自分が知らなかったことを知る機会になり、友だちが発見した場所で自分も発見してみようという気持ちが高まってきたのではないかと考える。また、グループという少人数で話し合うことで自分の意見を伝えやすくなり、友だちの意見を聞いて「もしかしたら・・・。」「面白そう。」と泡がどこに出来て、どんな時に出来るか予想を立てることを楽しむ姿が見られた。今までは偶然出来た泡を発見する楽しさを味わっていたが、自分たちで泡を作り出すという実験をすることで、園児たちは必要な道具や方法を懸命に考える姿が見られた。様々な方法での泡作りに挑戦することで、自分が予想したことが当たった時の嬉しさ、友だちの「成功したよ。」という声で自分も試してみたいという意欲、泡が出来ないと「他の方法でやってみよう。」と試行錯誤しようとする気持ちなどが出てきていた。クラスで同じ目的に向かい実験をし、結果を共有しながら、泡の面白さ・不思議さ、自分の考えたことを調べる楽しさなどを感じていたと考える。

場面3:〈空気って目に見える?〉

実験結果を伝え合った後、Sちゃんが「やっぱり、 泡って空気が入ってるかも。」とつぶやいた。しかし、 Yくんは「空気は入ってないよ!」と言った。以前も泡 と空気について考えを伝え合う姿が見られていたの で、新たな疑問として、『空気って何だろう?』とみん なで考えてみることにした。保育教諭が「空気ってどこ にあるの?」と園児たちに尋ねると、風船やシャボン 玉の中に空気がある・吸うのも空気・ボールの中にあ るよ・息が空気という意見が出てきた。

Sくんが「宇宙に空気があるんで!」と言うと、Kくんが「宇宙には、空気がないよ!」と言った。宇宙に空気があると考えているSくんは地球の図鑑を広げ、「ほら、空気があるやん。」と図鑑の写真を指さす。しかし、Kくんは「それは違うよ!空気って目には見えないんで!」と伝えていた。水の中に出来た泡が空気だと考えているSちゃんは、「お水がないと、空気って見えんのかな?」とつぶやいていた。

「泡は空気。空気ではない。」、「空気は目に見える。目に見えない。」など疑問に思ったことや自分の考えを次々に伝え合う姿が増えてきた。



図鑑に空気描いてるよ!





【考察】

泡を発見する・作るということを経験し、再びSちゃんは「泡は空気なのではないか?」という疑問を浮かべていた。疑問に感じたことをほかの園児へ伝えることで、泡への興味・関心から泡と空気の関係についての興味・関心に視点を広げるきっかけになったと考える。新たに『空気』について注目をし始めた園児たちは、空気とは何かを改めて考えていくと風船やシャボン玉、呼吸をすることが空気と関係しているのではないかと伝え合う姿が見られた。泡の実験で調べる楽しさを感じていた園児たちは「空気についても調べたい、知りたい。」という探求心が高まっていた。また、Sくんの図鑑で調べようとする姿やKくんの自分の知識を伝える姿、Sちゃんの「水がないと空気は目に見えないのかも。」という新たな疑問を伝える姿から、『調べる楽しさ』を感じていると、『一つの疑問を試したり調べたりして解決に向かう中で、新たな疑問が沸き起こった場合でも、そのことについてさらに調べようとする意欲』に繋がっているのではないかと考えられる。

場面4:〈空気を見てみたい!〉

Sちゃんの意見を聞き、「空気って水がないと見えない のかな?」と園児たちに尋ねると「水がなくても見えるよ。」 「外とか部屋とかにある。」「どこにも、全部空気ってある よ。」「ボールも空気!風とかも空気だよ。」とたくさんの意 見が出てきた。SMくんが「もしかしたら、空気って透明な んかも・・・。」とつぶやくと、「じゃあ、目に見えんのや ね・・・。」と少し落ち込む園児たち。しかし、Sくんが「空気 を捕まえて形を見てみたい!」と提案した。そこで、どうや って空気を捕まえるか考え始めた園児たち。SMくんが 「手で捕まえよう。」と言い、試してみるが目には見えない ことに気付き「ダメやな・・・。」と他の方法を探し始めた。S くんが「虫取り網でしたらいいかも!」と思いつき、試して みるが、「これは穴が多いけん、空気が逃げるね。」と気付 いた。次はプールバックで捕まえる方法を思いつき、試し てみるが「隙間があるけん、テープとかで止めんといけん よ。」と難しさを感じている。試行錯誤しながら様々な方法 を繰り返していくが、なかなか空気を捕まえる方法が見つ からない。しばらくして、Rちゃんが「袋は・・・?」と提案 し、試してみると空気を捕まえることに成功した。「いい ね!袋やったら結んだら空気は逃げないね。」と良い方 法を思いついたことを喜び合う。KIちゃんが「このこと、ほ かのみんなにも言いたいな!」と言っていたので、お帰り の時間に「空気を捕まえる方法。」を見つけたことをほか の園児にも伝えた。また、保育教諭が「他にも、空気を捕 まえる方法を思いついたり、お家の人に聞いたりしたら明 日教えてね。」と伝え、その日の活動を終える。翌日、他 に空気を捕まえる方法があったかを尋ねると、Sくんが「お 父さんが袋で捕まえたらいいって言ってた。IKIちゃんが 「ママが泡を入れるやつに入れるといいよって言ってた。」 Hちゃんが「ママが大きな袋で捕まえられるって言ってた よ。」と教えてくれた。昨日のRちゃんの発想や保護者に 聞いた意見に同じものがあったので、園児たちは「袋で空 気を捕まえたい。」という気持ちが高まっていた。自分が 持っている袋を取り出し、教室内の空気を捕まえ始める。 「捕まえた!」「成功したぞ~。」「空気ってフワフワするん やな~。」と喜ぶ姿が見られた。クラス中が夢中になって 空気を捕まえていると、Kくんが「外の方がいっぱい空気 があるかも。」とつぶやいた。そこで、「次は、外にいって 空気を捕まえよう。」と声をかけると、園児たちは園庭を走 り回って捕まえたり、そっと捕まえたり、大きな袋で試したり する姿が見られた。「ぷにぷにするよ。」「空気って柔らか いんや。」「空気、袋の形に変身して目に見えたね。」と楽 しさや面白さも感じていた。







袋なら空気を 捕まえられたよ!



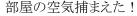


袋で捕まえる方法を 思いついたよ!





僕もやってみよう!





風も捕まえて みようかな~!



止まってても空気が 入った!



大きい袋でも 捕まえたよ!



走るといっぱい 空気が入る!



【考察】

自分たちの身近にある空気を目で見ることは出来ないかと考え始めた園児たち。SMくんの「空気は透明なのかも・・・。」と言うつぶやきに落ち込む姿も見られたが、目に見えないからと諦めるのではなく、どうにかして空気を見る方法・捕まえる方法はないかと様々な意見を出し合った。意見を出しては試し、上手くいかなければ次の方法を探すという試行錯誤を繰り返す姿が見られた。試行錯誤をしている時の園児たちの表情は生き生きとしており、失敗を恐れずに「次はこうしてみよう。」「もしかしたらこうかもしれない。」と自分や友だちの考えを試しながら探求する楽しさを感じていた。また、調べて分かったことを『みんなに知らせたい。』という気持ちが出てきており、面白さを共有することでクラス全体の『空気』への興味・関心が高まっていったと考えられる。

袋で空気を捕まえるという方法を思いついた園児たちは、教室内や園庭で空気を捕まえることを楽しむ。捕まえ 方も様々で、走ったら空気がたくさん袋に入ること、立ち止まっていても風が吹いたら袋に空気が入ること、袋を結 ぶと空気が逃げずに『ぷにぷにする。』『フワフワする。』と空気の感触が楽しめることなど新たな発見をする姿も見 られた。

場面5:〈空気を水にいれたらどうなる?〉

袋で空気を捕まえることを楽しんでいると、Kくんが「捕まえた空気を水に入れたら、どうなるんかな?」と新たな疑問を思いついていた。「水に入れる実験してみる?」と声をかけると目を輝かせて「やってみる!」と言った。

たらいに水を入れ、空気の入った袋を水の中に入れてみると、水の中からブクブクと泡が出てきた。「すごい!泡が出てきてる!」「ボコって音がした。」「僕もやってみたい!」と、泡が出てきたことに驚いていた園児たち。

『泡は空気』と考えていたSちゃんは、「やっぱり泡って空気なんや~。」と嬉しそうにしていた。『泡は空気ではない。』と考えていたYくんは「空気を入れると、泡がでてくるんや・・・。」と驚いていた。

今まで様々な場所で発見していた泡。空気なのか空気ではないのかを議論する場面が何度かあったが、空気を水に入れる実験をしたことで、泡の正体は空気だということに気付いた園児たち。泡・空気への興味・関心を高めながら、疑問に思ったことを自分たちで解明することで、「そうだったのか。」と納得したり、発見を楽しんだりする姿が見られた。











【考察】

Kくんの「空気を水に入れたらどうなるのだろう?」という疑問に、ほかの園児や保育教諭も興味を示した。園児の疑問や試してみようという意欲を見逃さずに、新たな実験へと活動を展開させることで、『どうなるかな?』『こんなふうになるかも。』と予想を立てており、意欲的に試そうとする姿が見られた。実際に水の中に空気の入った袋を入れ、空気を逃がしていくことで水面にたくさんの泡が出てきた様子や泡が出る時の音が聞こえたことを発見した園児たちの驚きは大きかった。

泡を発見し、注目し始めた時からSちゃんが抱いていた「泡は空気なのではないか。」という考えが、様々な実験を通して水に空気を入れると泡が出るという結果へ繋がり、納得する姿が見られた。泡は空気ではないと考えていたYくんも、実験を通して新たに学んだことに驚きながらも面白さや初めて知ることに喜びを感じていた。

今回の事例では、一つの発見を全員で共有し、友だちと意見を交わすことで興味・関心が高まり、不思議に思ったこと・疑問に感じたことを実験していく中で、学びの獲得や新たな発見を見つけながら学びを深めることが出来たと言える。園児たちの興味が高まり、面白さ・楽しさを感じていれば、知りたい・確かめたいという探求心は、より高くなってくるだろう。また、どんな考えを出しても、保育教諭が共感したり受け入れたりすることで「自分を受け入れてくれる人がいる。」という安心感を抱き、自分の考えを次々に出せるのではないかと考える。

普段の生活の中で、大人が疑問に思わないことでも、園児たちにとっては大発見となる。些細な発見や疑問であっても、保育教諭が園児たちの発見、つぶやき、考え、探求心を見逃さずに広げられるような環境設定をすること、園児の気持ちを汲み取りながら一緒に疑問を解明しようと楽しむことで、何倍にも面白さや楽しさが広がってくる。園児たちの園生活が驚きと感激に満ちあふれるように、気持ちに寄り添い、耳を傾け、様々な発見に共感していきたい。

事例4「どうしてアサガオが育たなかったのかな?」5歳児 もみのき組 5月~8月

場面1:〈アサガオの種をまこう!〉

5月下旬、アサガオの種まき・苗植えを行った。保育教諭が種を見せると、「これ見たことある!」「アサガオの種じゃない?」「前咲いたアサガオの葉っぱも、ハートみたいなこんな形やった!」「あすなろ組(4歳児)の時に、茶色い皮を破って、この種取ったことあるよ!」などと、今まで見たことや経験したことを思い出し、目の前にある種と結び付けていた園児たち。土を掘って種をまいた後、「土かぶせよう!」「あとは水やりもせんとな!」と、友だちと声をかけ合いながら手順を理解して取り組んでいた。

苗を植えていたSちゃんとTくんは、「(苗が)ちゃんと立たんけん、手で押さえちょん間に土をかぶせたら良いかも!」「先にこの中に土を入れちょったら、誰かに土持ってきてもらわんでも一人で出来るよ!」と、アイデアを出し合いながら進めていた。

種をまいた場所を見ながら、「アサガオっち、色水出来るお花よな!」「早く色水したいな!」「何色のアサガオになるんやろう?」と、色水遊びへの期待を膨らませながら、アサガオの成長を楽しみにする姿が見られた。また、Tくんは、妹がいる2歳児クラスが、アサガオの種をフェンス横にあるプランターに植えていることを知っており、「どっちが先に咲くんやろう? Yちゃん(Tくんの妹)の方が先に植えたけん、Yちゃんの方が早いかな?」と予想を立てていた。

土を優しくかぶせよう!





良い方法 みーつけた!



お姉ちゃんたち 何してるんだろう?



場面2:〈あれ?苗がない!芽が出ない…〉

6月中旬の戸外遊び中、Sくんが「先生、来て!」と慌てた様子でアサガオの苗を植えた場所に保育教諭を呼んだ。そこには、植えたはずの苗が1本しかなかった。ほかの園児たちもその様子に気付き、「本当や!なんで?」「枯れてしまったんかな?」と疑問を感じていた。すると、Rちゃんが「もしかしたら、誰かが取ってしまったんじゃない?」と言った。Hちゃんも、「だって、アサガオをここに植えたこと、くすのき組さんたち(3歳児)に言ってなかったもんな!」と賛同していた。

そこで種をまいた場所に行ってみると、芽が出ていなかった。Hくんの「もうちょっとしたら出るんやない?」という発言を聞いて、ほかの園児たちも少し心配した様子で待ちながら、いつ咲くのかと楽しみにしている。Tくんは、2歳児クラスのアサガオが育ち始めていることに気付き、比較しながら「こっち遅いなあ…。」と心配そうな表情を浮かべている。



植えた日は 苗がたくさん 並んでいる

アサガオの苗 どこに行った んやろう…



【考察】

植えたはずのアサガオの苗がなくなっていることにSくんが気付くと、ほかの園児たちにもすぐに広まり、『なぜ苗がなくなってしまったのか。』を考え、友だちと伝え合う姿が見られた。その意見の中には、「枯れてしまった。」「誰かが取った。」「誰かが土を上からかぶせた。」など、上手くいかなかったという事実に焦点を当てて、その原因を考える園児もいた。一方で、Hくんのように「まだ咲いていないだけかもしれない。」「もうちょっと待てば芽が出るだろう。」と、芽が出ていない現状を成功するまでの過程と捉える園児もいた。

このように、『苗がなくなった、芽が出ない』という事実をもとに様々な視点から考える姿は、友だちの意見を交えながら物事を多角的・多面的に捉えて考えていると言える。

場面3:〈なんで上手〈いかなかったんだろう…?〉

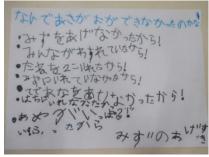
7月上旬になっても、種をまいた場所は未だに芽が出ておらず、一つ残った苗の育ちは遅かった。Tくんは、未満児園庭のアサガオがどんどん成長し、ついにアサガオが咲いたことに気付いた。その気付きをTくんが友だちに伝えたことをきっかけに、『なぜアサガオが育たなかったのか。』をクラスで考えた。

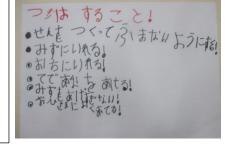
まず、絵本『あさがお』を見て、アサガオの育て方を学んだ。絵本を読む度に 自分たちが行った種まき・苗植えと違う点に気付いていた園児たちは、「え!?」 「そうせんといけんやったんか…。」と驚いていた。

絵本を読み終えると、友だちの顔を見ながら話し合いが出来るよう輪になり、アサガオが育たなかった原因を考えた。「水に入れんやったけんかな。」「鉢にも入れんやったな。」「雨が降りすぎたんやない?」などと、自分たちが植えた手順と違うところに気付き、意見を伝え合っていた。話し合いでは、司会・記録者を自分たちで決め、友だちから出た意見を文字として記録し共有していく中で、「それは思いつかんやった!すごいね!」と自分が考えつかなかった意見に拍手を送ったり、「次書きたい人!」「じゃあこっち周りに二つずつ書こうか!」などと友だちときまりを作りながら協同性を持って記録したりする姿も見られた。

また、Hくんは、近隣の小学校にアサガオがあることを思い出し、「そう言えば、 絵本みたいな鉢に入れて、棒を立てちょった! あと、水を入れたペットボトルを反 対向きにしちょった!」などと教えてくれた。自分の身の回りにあるもの、今まで見 た経験も参考にしながら、「次に、植える時はこうしよう!」と学んでいた。







【考察】

場面2で、苗がなくなったり芽が出なかったりした経験から、なぜそのようになってしまったかを考えていた園児たち。もう一度植える前に上手くいかなかった理由を考えることで、始めに植えた時よりも改善しようとしていることが分かる。つまり、「上手くいかなかったな…。」という失敗を、「こうしたらどうなるかな?」「他の方法を考えて、次はこうしてみよう!」という創意工夫をすることで、成功へと導こうとしている。

様々な驚きや葛藤を感じたり、友だちと意見を交換しながら思いや考えを共有したりする姿は、探求サイクルにあるように、試行錯誤を繰り返し成功へと繋げる過程であると考えられる。

場面4:〈水に入れてみよう!〉

話し合いをもとに、考えたことを試したいという意欲が高まっていた 園児たち。翌日の金曜日に、早速Sちゃんが、「始めに水に入れんと ね!」と提案した。園児同士で、「水はこのくらいでいいかな?」「水に 入れたら、芽が出やすくなるんやったよね!」と理由と共に、友だちと



金曜日と 比べて 種も水も 違う…! 確認しながら進めていた。

月曜日の朝、お米研ぎと野菜の皮むきの当番活動をしていたYちゃんとSくんがアサガオの種を入れていた水を見て、「水が白くなっちょん!」と驚いて言った。興味を示したHくんが近くで見ようと顔を近づけると、「くさい!もう水から出した方がいいと思う!」と臭いに気付いた。Hくんは、「いいこと考えた!」と言いながら、水を流してペーパーの上に種を置き、「こうしちょったら、水が入りすぎた種が乾いて元に戻るんやない?」と言った。Sくんは、「水がくさかったんかもしれん!」と言って、ペーパーの上に置いた種の臭いを嗅いだが、やはりくさいようだった。Hくんは種を観察して、「種が割れて白いのが出てきちょん!」「前よりも大きくなってない?」と様々な発見をしていた。

その後も種を観察しながら、「これで合っちょんかな?」「もう植えた 方がいいかな?」と、種の様子を心配したり次の手順を考えたりと、友 だちと思いを伝え合っていた。

場面5:〈もう植える合図?!〉

「どんなにおいがするん?!」「においたい!」と、順番に臭いを嗅いでいた園児たち。Sちゃんが、「こんなくさいと、もう植えんといけんのやない?」と言い、周りの園児たちも「このにおいになったら植えるってことなんかな?」「じゃあ今から植えようや!」「早く植えんと、もっとくさくなってしまいそうよな!」と予想を立てながら話し合い、『植える』という次の手順に早速移っていた。

すぐに園庭へ出て、アサガオを植えるために準備していたプランターの元へ行った。植える際には、「指で穴をあけるんやったよね!」「あんまり深いと芽が出るの大変そうやけん、このくらいかな?」「一つの鉢に四つ穴あけるんやったね!」などと、以前見た絵本の手順を思い出し、友だちと確認しながら進めていた。

また、絵本で見た鉢は正方形で、四つ角に合わせて正方形になるように穴をあけていたが、当園にあるものは長方形のプランターだったため、「こことここ(短辺の2か所)、近すぎるよね?どうしようか…。」「いいこと考えた!横向きに、間あけて四つ並べたらいいんやない?」「そうしよっか!じゃあ、私こっちの二つするけん、Sちゃんそっちの二つお願いね!」「ここに1個植えたよ!」と、プランターの形に合わせて変化させていた。

り水に入れただけで 見た目が 変わった!

指目

指のこの線を 目印にしよう!







【考察】

自分たちが経験したことを友だちと振り返り、絵本から学んだことを活かしながら水にアサガオの種を入れた園児たち。場面4では、金曜日から月曜日の朝まで水を入れたことで、水が白く濁る・種が大きくなる・種から白いものが出ているなどの視覚から分かる変化、そして、においという嗅覚から分かる変化に気付くことが出来ていた。また、場面5では、種の様子を見て友だちと話し合ったことで、『植える』という次の手順に移った園児たち。絵本の鉢と園にあるプランターの形の違いに気付き、どのようにしたら種が近くなりすぎないか、そのためにはどこに穴をあけたら良いのかを考え出していた。絵本で見た固定概念にとらわれず、友だちとより良い方法を考え出しているのだと感じた。自分の気付きや考え、思いを友だちと伝え合い、共有することを通して、「こうした方がいいんじゃない?」「やってみようか!」と次々に出るアイディアを提案・賛同しながら、創意工夫する姿が多く見られた。

場面6:〈やっぱり芽が出ない…もう1回!〉

種を植えてから数日間、アサガオの様子を気にしていた 園児たち。Rちゃんが「やっぱり芽出ないよね…。」と言う と、周りにいた園児たちが「水に入れたんに、なんでか な?」「種がくさかったけんかな?」と、再び原因を考えて いた。すると、Mちゃんが「水に入れすぎたんやない?そ れでくさくなったんやない?」と言った。それを聞いて、「じ ゃあ、今度は水にちょっとだけ入れたらいいんやない?」と いうRちゃんの提案を聞いて、SちゃんやHちゃんも「そう やな!この前は、お休みの日(土曜日・日曜日)も入れち ょったけん、ちょっとだけにしよう!」と賛同していた。

早速、自分たちで水を用意し、「一つのプランターに種四つやったな!」「二つプランターあるけん、種が8個いるっちことや!」と必要な分だけ種を取り出し、水につけていた。水に入れると、「あ!浮いた!浮く種と沈む種があるんや!」「種の周りに銀色のキラキラしちょんのもあるよ!」と、気付いたことを友だちと伝え合い、不思議さを感じていた。



【考察】

絵本にあったように水につけた種を植えたが、再び芽が出ないことを確信し始めた園児たち。『芽が出ない。』という事実から、もう一度原因を考えていた。初めて種を水につけた際、種がくさくなってしまったことに違和感を感じていた園児たちは、『水につける時間が長かったことが原因。』だと考えた。そこで、「次は時間を短くしよう!」と改良していた。上手くいかないことがあればその原因を考え、上手くいくために改良を重ねながら再びトライしている姿からは、園児たちの試行錯誤・創意工夫が読み取れる。

また、"もう一度やってみよう!"という試みが、種の周りの水泡や種の浮き沈みなど、新たな発見にも繋がる結果となった。

場面7:〈どうしたら芽が出やすいだろう?〉

水につけたアサガオの種を何度も気にしていた園児たち。「どのくらい水にいれる?」「また、くさくなったら嫌やな…。」「また咲かんかもしれんしな…。」「じゃああとちょっとにしよう!」と友だちと時間を意識しながら話し合い、水の中に種を入れてから30分程経った頃に水から出していた。

水遊びで戸外に出る際に、種を植えようとプランターのところに集まった園児たち。Sくんが「土がないけん、始めに土を入れんとな!」と、重い土を友だちと一緒に持ったり、なかなか出ない時には袋の口を大きく開けて工夫したりしながら、土を入れるところから自分たちで行っていた。

次に、HくんとSくんが、絵本で見たように一つのプランターに 四つの穴を指であけていた。その際には、以前植えていたSちゃんが、四つ角に合わせて正方形にするのではなく横向きに並べたことを伝え、HくんとSくんも賛同して同じように模倣して



いた。また、種を水に入れた際、Rちゃんが浮いた種と沈んだ種があったことを伝え、一つのプランターには浮いた種を四つ、もう一つのプランターには沈んだ種を四つ植えることになった。

種を穴に入れて土をかぶせた後は、「次は水やらんとな!」「植えよっていいよ!ジョウロ持ってくる!」と、Hくんが植えている間に、SくんやTくんが水を入れたジョウロを持って来た。Hくんの、「いいよ!」という合図を聞いて、SくんやTくんが「あんまり水あげすぎたら、後で雨が降るかもしれんけん、ちょっとずつにしようかな?」と、最近の夕立のことも考え、水やりの量を調節する姿が見られた。

水やりを終えると、プランターをどこに置くかを考え始めた園児 たち。以前植えたが芽が出なかったプランターを見ると、ちょうど 日陰に入っていた。Sちゃんが「あれ?アサガオって、お日様い っぱい当たるところに置くって絵本に書いてなかった?」と言う と、Tくんが「あっちのアサガオ見てくる!」と妹がいる2歳児クラ スが植えた未満児園庭のアサガオを見に行った。Tくんは、「上 から見た方がよく見えると思う!」と、木の根元の少し山のように なっている部分に上がって見ていた。すると、「陰じゃない!」と 言って、すぐにプランターの方へ行った。Tくんがプランターに 戻ってくると、驚いた表情で、「いっぱいお日様当たりよった!」 と周りの園児たちに知らせていた。それを聞いたMちゃんが、 「じゃあ、お日様がいっぱい当たるところに置いたら咲くかもしれ んな!」と言って、プランターを日向に移動していた。Tくんも同 じように移動し、「これで大丈夫や!」「前のは、陰やったけん咲 かんかったんかもね!」と友だちと話し合いながら、新しく植え たアサガオの種の芽が出ることに期待を膨らませていた。

また、HちゃんとSちゃんは、プランターにアサガオの種を植えていることが他クラスの園児たちにも分かるように、画用紙に『もみのきぐみ あさがお』と書いて看板を作る姿も見られた。「くすのき組さんは文字読めんか…。でも分かるようにせんとな!」と、アサガオの絵を描くという工夫も行っていた。









移動しよう

【考察】

場面7からは、『土を入れる→種をまく→水やりをする』という一連の流れだけでなく、芽が出なかったプランターと比較して日光がよく当たる場所にプランターを移動したり、看板を作ったりと、アサガオが育つために適した環境を考えていることが分かる。最近では、晴れているにもかかわらず雨が降ったり、突然強い雨が降り出したかと思えばすぐにやんだりする夕立に興味を示している姿があった。そこで夏の自然事象である夕立に着目し、夕立が降った場合、水のあげすぎに繋がるのではないかと考えたことから、自分たちが水をあげる量を調節しようとしており、様々な可能性を考えたり先のことを予想したりした結果の行動であったと考えられる。

また、HちゃんとSちゃんは、初めてアサガオの種や苗を植えた際に、「誰かに踏まれたかもしれない。」「年下の子が取ってしまったかもしれない。」と考えたことを基に、新しく植えたアサガオの種を守るために看板を作ったのだと考えられる。

アサガオが咲くという目標に向けて、以前上手く出来なかったものと比較して改善したり、まだ実践していなかったことに取り組んだりと、より良い環境を考え実践していると言える。

場面8:〈あ!見て見て!!>

種を植えてから11日後の戸外遊びの際、Tくんが「見て見て!アサガオが!」と、アサガオの芽が出ていることに気付き、驚いた表情でみんなに教えてくれた。園児たちは、「え!本当?!」と興奮状態で見に行き、芽が出ていることを確認すると、「本当や!やった!」「やっと芽が出た!」「やっぱり水につけるの、ちょっとで良かったんやな!」と改善策によって成功したことを友だちと喜び合っていた。

Rちゃんが、「1個に、2個ずつ出ちょんな!」と、『浮いた』『沈んだ』のプランターに二つずつの芽が出ることに気付いた。それを聞いて、周りの園児たちも、「四つずつ植えたけど、芽は二つずつだったね。」「じゃあ、浮いても沈んでも芽が出るっちことや!」「アサガオが咲いたら色が違うんかな?」と、種の浮き沈みによる比較をしていた。

Kくんは、「この芽、元気ないのなんでかな…?」と、土の上にぐったりと横になっている芽を触って起こそうとしていたが、芽は起き上がらなかった。するとTくんが、「水あげたら元気になるかも!」と言って、水やりをしていた。

別の日、室内遊びをしていると、Sちゃんが「アサガオに水あげんと!枯れてしまうかもしれん!」と言うと、HくんやTくんも「一緒に行く!」と言って水をあげるため戸外に出た。「あ!ちょっと大きくなっちょん!」「この前倒れちょったの、ちょっと元気になってる!」と先日見たアサガオの姿と比較していた。

また、Sちゃんが葉っぱを触りながら「こっち(裏)はフワフワしてて、こっち(表)はツルツルしてる!」と驚きながら言った。その言葉を聞いて周りの園児たちも実際に触り、「これはどっちもツルツルや!」「フワフワの方は、小さい毛があるんやな!」などと、気付いたことを伝え合う姿が見られた。



【考察】

試行錯誤を繰り返した結果、ついにアサガオの芽が出たことに喜ぶ園児たち。Rちゃんのつぶやきをきっかけとして、周りの園児たちも、浮き沈みで分けたプランターの違いによる結果に着目していた。どちらも二つずつ芽が出ていたことから、種の浮き沈みと発芽の確率とは関連性がないことを導き出していた。しかし、アサガオの色の違いがあるのではないかと、今後の可能性も視野に入れたり、葉っぱの表裏による触った感触の違いを発見したりと、さらなる興味・関心が深まっていた。

また、始めに苗や種を植えた時に比べ、芽の様子を気にかけたり室内遊びの際にも水やりを意識したりする姿が見られるようになった。このことから、長い過程を経てついに発芽したものを大切に育てようとする心が芽生えていると同時に、アサガオが咲くという植物の最終的な目標へ向けての意欲が高まっていると考えられる。

場面9:〈みんなにも教えたい!〉

園の行事である野菜パーティーの中で、園で育てているトマトやきゅうりを使用した。野菜を育てる過程のドキュメンテーションを作成して廊下に掲示しており、それを他クラスに見てもらったり、以上児クラスが作ったピザを未満児クラスの園児たちに食べてもらったりした経験から、異年齢児と



のかかわりを喜んでいた園児たち。

すると、Sちゃんが「アサガオも芽が出たの見てもらお う!」と提案し、Hくんも「たけのこ組さん(2歳児)に色水 の作り方教えるんやった!咲いたことも教えんと!」と賛 同し、ドキュメンテーションを作成することになった。「何 て書こうか!」「これはどう?」と友だちと話し合いながら 書き進めたり、「芽が出らんで悲しかったね。」「この時び っくりしたよな!」と写真を見ながらその時の感情を思い 出したりしていた。

出来上がると、「輪っかテープにして貼ろう!」「最初に 植えたのはここにしよう!」などと、友だちと貼る方法や位 置を考えながら、早速廊下に掲示していた。そのドキュメ ンテーションを見ていた3歳児のRくんが、「なんで水に 入れたん?」と疑問を感じており、Mちゃんが「水に入れ たら芽が出やすくなるんで!」と教える姿が見られた。

また、送迎時にSちゃんやMちゃんは、保護者や年下 の兄弟と一緒に、作成したドキュメンテーションを見てい た。SちゃんやMちゃん、近くにいたTくんは、「始めに種 植えたけど芽が出らんで、その後種を水につけて、… …。」と、自分が試したことやアサガオの様子を矢印に沿 って説明していた。Mちゃんの母親は、「芽が出たん や!」とドキュメンテーションを通して芽が出たことを知 り、Mちゃんが「いろいろやってみたら出来たんで!」と 言うと、母親は「すごいね!」とMちゃんの試行錯誤を認 める言葉をかける姿も見られた。場面3での話し合いをし た時から家庭でアサガオのことを話していたSちゃんは、 「いつも話しよったけど、写真見たら分かったやろ?」と、 写真があることで父親により伝わりやすくなっていることを 感じていた。



トマトの時みたいに 看板も作ろう!

矢印つけたら 分かりやすくなったね





他クラスとの共有

こうやって 芽が出たんだ゜



保護者との共有

見て!

【考察】

ドキュメンテーションを作成することにより、今まで自分たちが取り組んできた過程を振り返ったり、友だちと一緒 に考えたことや工夫したこと、感じた気持ちなどを共有したり、年下の子に見てもらうことで自信や達成感を感じたり していた。また、廊下に掲示することで、他クラスそして職員など、活動内容や過程、結果を園全体で共有すること が出来た。そして、ドキュメンテーションを見た他クラスの園児が新たなことを発見したり、疑問に感じたことを教え てもらったりと、互いに刺激となり学びの広がり・深まりへと繋がっていた。

また保護者とも共有することで、保護者は、子どもたちが園で経験していることやその過程を知り、写真によって 子どもの姿や表情を見たりすることが出来る。それにより、保護者が子どもの育ちを認める言葉をかけたり、家庭 でも園での活動内容が話題になったりと、子どもと保護者のコミュニケーションが深まっていくと言える。子ども達 も、自分の取り組みを見てもらい、認められることで、自信やさらなる意欲に繋がっていく。そして、園内での出来事 や子どもたちの学び・育ちを、ドキュメンテーションという形で『見える化』することで、保護者と子ども間だけでなく、 保護者と保育者間のコミュニケーションも増え、保護者と共に子どもの学びや思考力の育ちを喜び合い、園と家庭 との連携を図ることも出来ると考えられる。

上手くいかなかったという事実



原因の追究

- ·思考「どうしてかな?」
- ・振り返り「自分はこんな方法 をしたな。」
- 予想「あの方法が原因 だったのかも…。」



思いついたことを次々にやってみる

自分たちで 判断・実践する

試行錯誤 創意工夫

文字を活用して 共有する

友だちと 意見を出し合う 上手くいったも の、上手くいか なかったものと 比較する



再び上手くいかなかったという 事実の発生 ・自信や達成感

さらなる興味・関心

・次への意欲

成功 学びの獲得

園全体・保護者との共有

(ドキュメンテーションの作成)

【総合考察】

5歳児になり、保育教諭を介さずとも友だちと話し合いをして、次は何をするか、どうしたら上手くいくだろうかと考え、クラス全員でアサガオが咲くことを目標に試行錯誤する姿が多く見られた。

前頁の図形で示したように、まずは上手くいかなかった事実を基に、原因を追究していた。その中で、「どうして上手くいかなかったんだろう?」という思考、「鉢ではなく、土にそのまま種を植えてしまったな…」というように自分が取り組んだことへの振り返り、「水に長く入れすぎたのかもしれない…。」と言うように原因となりそうなことの予想をしていた。その後は、繰り返し試行錯誤・創意工夫をしていた。その中には、主に下記の五つの行動が見られた。

- (1) 思いついたことを次々にやってみる・・・「水につけてみる?」という提案から、「今からつけてみよう!」という意欲 や「どうなるかな?」という好奇心が高まり、そのために必要なものを考え 準備する。
- (2) 自分たちで判断・実践する・・・「もういいかな?」「このくらいでいいと思う!」と友だちと話し合いながら取り組む。
- (3) 友だちと意見を出し合う・・・話し合いを通して自分の考えを伝えると共に、自分では考えつかなかった友だちの意見を受け入れる中で、お互いが刺激され考えの幅が深まっていく。
- (4) 比較する・・・上手くいっているものとの比較により、成功するための知識・アイディアを得る。 上手くいかなかったものとの比較により、新たな改善策を考え実践していく。
- (5) 文字を活用して共有する・・・①話し合いでの意見を文字にすることで、原因や今後の取り組みを分かりやすく 整理し、クラス全体で共有する。
 - ②看板を作ることで、アサガオを植えたことを他クラスへ知らせ、園全体でも共有 する。

これらの試行錯誤・創意工夫を経ても再び上手くいかない事実が発生した際には、次に考えられる原因の追究をし、さらに改良・改善を重ねていた。その結果ついに発芽したことで、自分たちの取り組みを振り返って自信や達成感を感じ、さらなる興味・関心の深まりや次への意欲の高まりが見られた。

また、自分たちが試行錯誤・創意工夫を重ねた過程や成功した結果などを、他クラスへ共有したいという気持ちの 高まりにより、ドキュメンテーションを作成した。普段からドキュメンテーションを作成したり、異年齢児クラスを誘って見 てもらう活動に取り組んでいたこと、そして年下の園児に見てもらう嬉しさや共有する喜び、自信などを感じたりしてい たことから、今回のような共有方法に繋がったと言える。

園児たちは、クラスの友だちと共に考え、判断して行動するという協同性を持ちながらアサガオという植物に向き合い、雨や日光などの自然事象などを含め様々なものや人とかかわっていた。それらを通して、目標に向かって何度も挑戦しやり遂げようという好奇心や意欲、繰り返し試行錯誤・創意工夫することで深まった探求心、取り組んだ結果によらずとも多くの学びを得る楽しさなど、様々な気持ちを感じながら感性が育まれたと言える。

今後も、アサガオの成長を追いながら、園児たちのつぶやきや心の動きに着目したり、発見や気付きを認めて共感・共有したりしていく。また、園児たちの好奇心や探求心、「やってみよう!」というチャレンジ精神などを認め、興味・関心をもったものを、より追究できるような環境構成やかかわりを行っていきたい。

IV 実践の考察

2歳児の「大きいのがきたよ!」では、園庭の空に広がっている雲から大きさの違いや雲の動きに興味を持ち、自分たちの不思議を、友だちや保育教諭に伝え合い共有した。また、雲に興味を示したことから空の変化(天気)へと面白みが深まった。

3歳児の「色が変わる不思議」では、水遊びを活発に楽しんでいる時に、水に濡れると色の変わる石と変わらない石があることに気付いた。石をそれぞれに分類し、虫眼鏡を使って観察した。表面にザラザラとツルツルがあることに気付き、このザラザラとツルツルに着目し、何度も見回し、触り、違いを感じていた。このことにより、より一層日常の遊びにおいて不思議の発見や探求を繰り返し追究している。園児たちの確信にあえて否定を一切加えなかったことは、当園の教育・保育への方針「子どもたちの世界を驚きと感激にみちあふれた子どもたちに」を実践し園児たちの自己決定を尊重した。

4歳児の「泡って空気なの?」では、掃除の時間にバケツの中に乾いた雑巾を入れ絞ると、プクプクと指の間から泡があがってくる感触を一人の園児が面白がり、『面白い』がほかの園児にも広がった。『指の間の感触はなんだ?』と自分たちの予想を確かめるため、必要な道具を準備し、自分たちの考えを伝え合う姿が多く見られた。「泡は空気なのか?」という疑問から実験を繰り返していくことで、面白さや不思議が広がり、もっと追究したくなり、調べることに楽しみを感じていた。また、「泡は空気!」と思っていた園児もそうではないと思っていた園児も園児同士の言葉のやり取りや、何度も試してみる実験から園児一人ひとり違った学びを獲得することができた。園児たちの諦めずに追究する姿に、新しい心の気付きが生まれ園児たちの探求がより深まっていた。

5歳児の「どうしてアサガオが育たなかったのかな?」では、たくさん植えたはずのアサガオの苗が1本になり、植えた種から芽がでてこないことから、なぜ苗がなくなり植えた種から芽が出てこなかったのか園児たちは、ミーティングを行った。園児たちの期待通り苗が成長し、種が発芽するという思いは、ことごとく期待を裏切られた。次、成功させるための意見を出し合い再度植えるが、また、アサガオは育たなかった。二度失敗をしたことでさらに「芽を出したい」という園児たちの追究の気持ちが強くなり、失敗した原因の情報交換、試行錯誤を幾度となく重ね成功に至り、自分たちが経験した達成感を年下の園児や保護者にも伝えたいという思いから、日々の活動の中でしているドキュメンテーションを作成したことで、園児たちの活動がさらに広がり、保護者にも園児たちが失敗し、この失敗からもう一回と心を動かし探求し気付いたと言うことを園児たちと共有することができた。また、このアサガオという身近な植物に愛着を示し、園内や家庭で継続を繋げる観察であったと考える。

本年度の実践では、クラスの中で『面白い』を発見したこと、繰り返し楽しんだこと、体験した遊びの経験を重ねていくことで、継続に繋がり、2・3歳児の『伝え合い』から4・5歳児の『話し合い』へと広がっていることが分かる。また、「どうなるかな?」と予想を立てたことで、何度も意欲的に試そうとする姿が見られ、予想通りにいかなかった時は、素直に受け止め、繰り返し探求し、継続し繋げている。これらの体験から「科学する心」が育っていると考える。また、「雲」「石」「泡」「アサガオ」と身近にあるものから不思議や疑問が生まれ、身近なものを様々な方向から実践し、考え、失敗を重ねたことで多くの発見や学びを獲得し、「こうだ!」と思っていたことが「もしかすると、こうなのかもしれない!」と心が変容する姿が見られたことは、「科学する心」による育ちや体験の深まりを通じて当園で繋がっている。

V 今後の課題・方向性

昨年度は、保育教諭とのかかわりが園児たちの学びに繋がるということを常に考える必要性を挙げた。新しく入職した職員も共通の教育・保育ができるよう、園内研修で園児の活動時や環境構成の写真を見ながら意見を出し合い、各クラスの園児が面白がっていること、興味を示していることを共有した。これらを繰り返していくことで、園児の思いを受け止め「なんだろうね?」と不思議を共有する声かけなど、職員一人ひとりの園児とのかかわり方に変化が見られた。

毎月クラスだよりや連絡アプリを通して、園児たちの園内でのダイナミックな遊びや探求している内容を写真と動画で保護者にお知らせしている。さらには、活動時のドキュメンテーションを廊下に掲示することにより、ほかのクラスの園児

たちも「何をしたのかな?」「すごいな!」と興味を示し、年下の園児たちは憧れを抱いている。送迎時に園児の話を聞きながら見入っている保護者も、家庭で園児から聞いていた内容を写真や文字付きで見ることができ、「どうしてだろうね?」「すごいね!」と不思議を共有し、認める声かけをしている。保護者に認められた園児たちは、自己肯定を持ちさらなる発見を繰り返し、多くの学びを得ることができると確信している。

今後も、園児たちの発見やつぶやきを見逃さず、共感し、上手くいかなかった時は「ナイストライ!」の声かけをする 人的環境、探求を支える物的環境を大切にし、園児たちが新たな発想を探し続けられる環境を備えられるよう努めてい きたい。

研究代表·執筆者氏名

園長:宗像文世 副園長:山本加奈子 主幹保育教諭:井和丸明美、渡邉清子 保育教諭:園田未来、高西ちひろ 金光里胡、橋爪しのぶ 他職員一同